
晴れのち雨、またはあなたの涙

岩雪 竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

晴れのち雨、またはあなたの涙

【Nコード】

N2914A

【作者名】

岩雪 竜

【あらすじ】

父親に捨てられた、母親以外に省吾は心を閉ざしていた。そんな時、学園内での少女との出会いで省吾は徐々に心を開き始めるが・

第巻話

第巻話 「崩される家族」

俺の家庭は母親だけだ。

父親は5年前に他の女と家を出て行った。

俺は恨んだ・・・父親の事を。

幸せだった、あの頃の家庭を奪ったのは父親だった。

今となつては、母親にも好きな男が出来たらしく、結構幸せに暮らしている。

俺は母親が幸せになつてくれるならば、それでいいと思つている。

5年間も俺のせいで苦しんできた母親が、これからの人生楽しめるように俺も頑張りたいと思つてるし。

「省吾、お前にとっての幸せって言うのは何だ？」

父親は、突然俺の部屋にやってきて、そう問いかけてきた。

正直、父親が何を考えて俺に質問したかなんて、よく分かつてなかった。

「幸せ？家族が皆で笑つてらる事じゃない？」

それが普通だと思つていた、家族が皆で笑つて、普通に家族団欒を味わえるのが俺にとっての幸せだと思つていた。

それなのに、この話をしてから2週間ぐらいして、父親は他の女と家を出て行った。

俺と母親の残して、自分だけ幸せを味わう為に。

裏切られたと思った・・・。

母親にも俺にでさえ謝る事も無く、月々決まった日に決まった額の養育費やらを送ってくるだけで、今となっては顔すら見る事も無くなった。

別に、俺に謝る必要はないと思う、だけど、母親にだけは謝って欲しかった。

たった、一言

「ごめん」と

言ってくれるだけで良かった・・・のに

今じゃ、父親がどこに居るのかさえわからない・・・

そんな父親を俺は恨んでいる。

第貳話

第貳話 「突然の出会い」

「省吾!!お前、呼び出されてるぞ!」
人が気持ちよく寝てるって言うのに、誰だ耳をつねって俺を起こそうとするのは。

「煩い・・・、俺は眠いんだ。」

「そうか、そうか・・・、良助、お前の鉄槌を許可する!!」

「・・・ヤバイ!!!」

「起きるよ・・・たく、何のよう?」

良助って言うのは、空手部の主将をやってる、全国でも毎回5本の指に入ってる奴だ。

多分、俺の耳をつねったのは鍊だろう、こいつは何故か良助に慕われている、ひよろひよろの癖に意外と喧嘩が強くて、よく学校に来ると不良をボコボコにした話を鼻高らかに語られる。

「やっと起きたか、先生が呼んでたぞ、お前のこと。」

「え、俺?なんか悪い事したかな。」

「そんな事いいから、さっさと行ったらどうだ。」

どう考えたって、俺は呼び出されるような事はしてない。

学園でも別に問題も起こしたつもりもないし。テストだってそこそこ点数を取ってる。

俺が一体何したって言うんだ、あんまり学園とかで目立ちたくないんだけどな。

俺は人と付き合うのが苦手になった……。親父のように、また裏切られるのが嫌で、俺は心を閉ざした。そんな俺に友達と呼べる奴は居ない、さっき話しかけてきた錬だつて良助だつて、他の奴が俺と話したくないから、わざわざ起こしてくれたんだろう。

「失礼します……。柑先生、あの何の用でしょう？」
職員室に行くと、柑先生はいつもの様に自分で煎れたであろうコーヒーを飲んで寛いでいた。

「ああ、待っていたよ、今日は君に会わせたい人が居てね。」
言っただけの意味がちょっと分からない。

「会わせたい人が居るって、どこにそんな物好きが居るだろう。」

「は？俺にですか？」

「ええ、ちよつとこちらに来てください。」

連れて来られた場所は会議室だった。

「あの、誰なんですか？」

「きつと驚くでしょう、君も。」

何故か柑先生は、凄く得意げな感じで俺の方を見た。

「さあ、入ってください。」

柑先生によってドアが開けられた瞬間、俺の胸に何かが飛びついてきた。

「お兄ちゃん！！元気だった??？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2914a/>

晴れのち雨、またはあなたの涙

2010年10月17日03時13分発行